續膝栗毛三編

下

へ13
3124
6

特
へ13
3124
6

岐蘇街道續膝栗毛三編下卷

十返舍一九著

東都

やくて守山武佐とうちるて。相の宿清水ぐちを過
とうのとをるよりしばらくさて日暮て。ひさ見堂東
なり。殊より夏中労ましければ。お蚕の宿とおもうぞ。
一夜の蚕をむさとぐんと。ちかとりとぐんのくみ。
草鞋を脊負て。戻る男。ふうをんをてこりや
ちんぐ。とるりぐやるのいろん陣い宿があらば

嘘乃
鮎
花うたの樹
仮名
西堂

青梨
堂嶋良車

とまうてくる。「男」「ちいおの衛門やの。あのもどおやてく。
たけがたまてありよる。おちちのうちくとまうんせ
「小」るんごうけかごう出くよくてびまてこぶけさんごと
でもいくだで一夜のことごうらぶ。あくとまうて「侍」
「ヤア」「侍」「そんるらもをおめくの和ハ「男」「マアこち
るさんせトつれてもくんたくもくこうれのいうあ「こうろ」
「小」「家」おくくこうアおもんれれのるらのこちん
「ごと」「隣」おとるうくん一「侍」くあごらんせく「こうれ
「女」大変るうちごせあてたごでもぶのごあまごらが

トんうる女かうこの髪の毛ハあごくけしてうわもかくごもみ元
こちくそうこまとまるうこちあのこてとたごまつみてうこうの火を
こきるのごらたる「小」「コリヤ」おさまふ「侍」「ハ」「モ」「ら」れめ
るると「焚」「そ」うん。たごくおまんごくこりくこあこ「来」ごおる
るのふめくく「焚」せるきん「隣」「ナニ」「焚」「ろこ」「来」がおるものら。
おいくくこと元「食」「ど」ごとおりあそふご「隣」「ハ」「アあ」「ぬ」「せ」「こ」「ら」「ヤ」
るのんういぶいまくこう。そくこらたごそまうらん
まこう「隣」「ハ」「ま」「ま」こるすさぶらどるうまごものを「隣」「そ」ふうん。
まくこるのあげるものいがるんぶコリヤ「あ」「こ」「ぶ」「ま」「ん」「カ」「ゼ」「キ」の

燒干がある。やろ。琉球芋なと入れて焚んぜ
サアく おあさあいろうの祝きへほうとよんを
あづかるなれ ちまいがさ若地がなのぞへぞるいふ
ちまこれさなりしてやかこや接糸の枝あり
うとありのさ。堪忍なれ いめへきいとといふぞふ
ろうちらがとんなあうをてねされがとて侮がまん。
モミ お邪ケなのぐら聖の紙ずで是をかうろとんな
ぜへトうねてはいらがぞでうへをちくとおのしうらげんの
ろうとひろいてぐるくと紙かつそなんぜそうちらがへろ

中へ入おさうるをとういぶーこてゆけまのうとんなそうれーを
ちきくおりひるとんせそきもとうぶさせんとうちぐのまひ爪
むとそじて。こうーもへうこそび。ヤアく おう祝ーやなこんな
ものうてびつこうーー
めのうーどもぶあづうてへ。夜がようん ぴーとん
祝うまうん。コリヤ おまいがとのあうるおれなされ
仮仁中 旅でハ今祝めうて祝るかぜ用ぜうら。
嘉へ 新けて おくぶいくとんがらひもそうら。おれくろ
あうへ 来てくんなぜへ ヤそれハ遅惑だや うんぜ。
こうまようん。麦の約仏擅の中へいまて垂まうく

コレ　ゑんのさん　ちょうよ　おくさま　ぜんぜ。
ゑんぜ。　ゑんぜ　やみ　くと　つ
ぶつぶつ　ゑんの　ちゃーを　あけて
ひとる。　おくの　ほとの　ゆの　ゆ　ゑ　ゆ　ぶ　ゆ　ゑ　ゆ　ぶ　ゆ　ゑ　ゆ　ぶ

茗荷の外まァ何もあらやせんゝこと茗荷の
名あでぇどうらけこの面のうらあんぱあうでけさ
初おじやさんぴ紀さよえさのじやとんべらこ
名おごとうてぇあうがだうとうこんまうぢおめく
たてごいいくら茗荷さるゝあもあげんさんぱさごこ
百文十でえんこいの絹のつゝそのうぢうぢうふ
むさんうちじやけまてぇふとうんか移うら蚤のめんのを
あげまさよこんゝ蚤かゝ移ゝが風がこんとねる

ぢうゝ茗荷さうじやぱまうふみかゝめんとあるうんのコリ
とんざめふあふぱそして風居んぢうさる移ゝ中ハ
このさるよあうるぢかのまのあさじやあ移ゝのうもの
移ゝぱたごをとうあぢら湯もとう移ゝでゝめゝが
まうとうこいうことだうでぇちんな雨ゝのまうてぱ
移ゝぱうよ往生して移てくまううトけんあうかて
ぜんをううけて
あぢて移ぢごこんぢぱそとゝまきるうらべてぇうをれあとんのつぎゝ
るるとうちきせてぱうとを移させぱうふのりのいうりのさとる
何のまるあうるのゝぱのまの
こううこうとうげるがら
あのえかりん移いうこんさ

そふじや。あさものあさもうがだろうさんせ。
何じやあろと。こあうが　あつとうあつとものうとうとも
しるげる。歌名ふ毒　うがらうて。仏壇ろ金
ととうれさとる法のうじや　ホこあの金ととれて
りんざら。ローが中の袴　うみてらぐんせそれだろう
じや　ぐんらうさめあも一ぐんさせてあろうい
ぐらう。ろのうのださ夏の邪百も度さんせ表一儀
買ふてあとうん　ローのいりじもとうらうい。紙の

さて四人うちあつて下んせ「なるほど」ぐそんどやく〜トうちうつたあとの

ひとく〜だるの・ほれ〜さて〜八れさぐれのうちゆゆふどとれをゆて

おうく〜さて〜さくら見ぞ・おうとてらくてゆてうしがまぐさのくれ

ふけあけどゆぶれ戸のさきさまのある風のひゆうるるふ・嵐つれぐ

そおのあけるをちちうゆるぶ・ぶどるく・寒くのうゆのひぐきも

ありぐちちく〜たやありそあれ「るヒイこく〜」人そくうるの「よせべ

さみぐうのるのいるく〜ちる

ナアちうつさゆナアこアへるぐ「ちやおウめんナアこアへヨウ

そのぐそく〜トは内やどのあさらぐ・ちうさるうり

めぐちうてあうをあそぐぜんとちくうるふ

ちのやどのひりぐうう・ゆ・目を移ぐてをそぐかくひうしぐ

けさんいうゆそゆあるう〜ゆ・ゆるゆしそそゆくふまさくし

ちちいぐる「傳」「ちそれ」大きゆあやそゆとふあうやゆさパラるゆある

「ちそれさゆあぐ」トいひうち主出て・ほたそんぼ・やどのありてのうぐら笑ゆるゆ「モシ」佛檀のう祢ちそれていんぐ

ちちぐ・せうぐんの女ぐう

ゆんさんせ「ばそんしやぐさぐめ・ワをれちうぐや

あうトぶうぐんを「イヤアいうのるゆやらりく

いふちうつぐパテちそれちうるちぐぐやぐイヤく

うゆいりていふちうつぐぶ・ぶはちそれさゆのがある

ちん「女ぐ」るう紙ちそれていんぐぐぐん「ちそ」ぐ「ぜん」

ちちうゆちそれていうるトちそれをちちく

ほたく・ちそれを

ようなぐらいのものであるが
宿賃をとるまでの品物の
買かえ極の　仕合
をまとめて三ッやすさ三郎あれを打ち出し紙屑乃
紙よりいるが此高くたづれよう。年の比六十
あまりの婆化。近辺のものとみえて彼の丁稚さ
ん後に紙ぼくみをもち出。その身かたちも屈
さんきうあそぶまるうさんよりもあくとそ。

あまり　おそれんがさあるどーやなー　少ハ　さあるさ　あるは
ものいそどやげるぷーどものあるうらうるなあるどく
人は却てーどやが。なのーやろと殘金あるとある
ものどやそうる　イヤまり土一朴　金一朴とる西で。
小判小粒がそんな。大ぶるまるうちもってあるとて
ハテそふくの。張もそれひくやはんなー　十二貫三匁
金へ。お方へ義とうふで。作のさるは絶員へ対
そうつけさめのでその金をさくうてひろひる

あるのさ傍そこらこもの。一番拾うて来て畑の
ふるとまんんものじゃ小ハそんなこちゃはな。
おりがくるんせてこい。吉兵衛といふぶぶんでも
一日に千あづ歩るといふぶぶら繁昌する小ぶ祢
傍いりゃ肝がつぶまこと小ぶそふさおめ
ぐるのせうる。田舎ものがぐると。狂をつぶさあ
ようてき吉兵衛よへいろでも又人と十人わきもを
端つぶされさものが。どくそぬさを筈ぶ

生さ女郎のゆるぶぶめの紙傍ハアまんぶ。ぶぶい
るんういる小ハナアこどこのくさやりまんぶ女を重る
ものぶ傍イヤそまでも。上方でこのあるさあるい。
まんぶ女ぶらしてぶんまの石仏抱て寝さもうで
あるさるん小ッリャもあるあれるあぶ傍イヤあれ
せん。まるるいい天気の日であるさ小ハ孤の嫁入
ぶやアあるあるトトト

ものを名物の言葉 ㊀さらし布新。は用るの
ヲ一のことで買ものてやさうもせ。隨分あつもさう殺て
あげまちよ ㊁イヤそんなものハ入やせぬ ㊂お買
るされどことござりまちて。マアおてうけるされて。
お菜でもあげりるされ ㊁アイ菜もちさう菜で
ものさ ㊂さようじやあるまいがアく休んでもせるされ。
ものを ㊁でござりまちて ㊂イヤもう金が移へうら
たでちう移へぞんるまいらこちらこちらうら変てやり

たものご ㊁ハアあるさらしをもつてうれる
㊂ものつてぬものと紫さらしとしさらしをつぐ
買もせぬ名の名のさうもふ
和をさらしてをるうき 議
はれの者とさて ㊁コリヤでもりてく。もちろんぐさるるく
をるるるるるでやとあとの菜やでいつぷくさて
りとのヲれ ㊂ヲちちもも休んでいきやせう ㊁トちち
ちや登へさらると。おくのざきよ小ぞうひとりつれさる
ヤ一ごのあむう一人ぬをいるをとちつけざるとおとをり

こへ　ちの裸の家言葉さ　ゑ　ゆけ　るへ　ゆ　ゑ　ゑ　ゑ

摺針峠
武蔵

戸隠舎
竹亦

ごぜやあつてごぞうろう隠居して。是ゝ後生
願ひのとゝ身よろうて。殺生が好じやをよみ。
ろんさうちやぞや。おうそ、生あるものゝ命を
とれか。地獄へ堕て。未来永劫不責を受ると
いふこうちや。アおそるべし〳〵ヲイさよなら。
殺生はやめまうよう。ちイとの魚はうまいこうちや
な陸ホンニおめんぐらの吸物か。皆どうぢ様ぜ
ちいつまんは至膳汁をとゝさの下そのをぢやあんの

きいものとア。おせうさうの四位文のこう飯けと。
元遠てをんまのごゝコリヤたそのじや。ろ理ようそ。
見味とおりのさゝヤアおせうさうあどうあぐう
るのさうおゝさうんゝイ位高亭うがりてうせる
りのじやふハテそう飯みてをんおそ年や尾があつく。
コリヤめづらしいそう飯じやとおりひうてぞんと
ぞぞやうじやとん。年ぐつぐぞまこひうきうぞそ
りのこよぱそうもりよ一ぜんくてぞんせハ〳〵

うまんたぐぢやうんな。コリヤあるさのとこうち
ところてもこてぢやあるさのハアきのようさ
どぢやうんイヤおせうさるへんよ數生とこると。
今のされ美うんいのさあるさぶどやうこてこへ
もこてさとんとあぢあいな。ハアイヤのちよこぶるん。
ありやうへ悪侍數生ぶ大好物ぞうんせきのあ
うちの道泥でゆ小侍めとあるう。濁酒をあちち
出て。泥の中うう餘や種をとこるさわどふく。

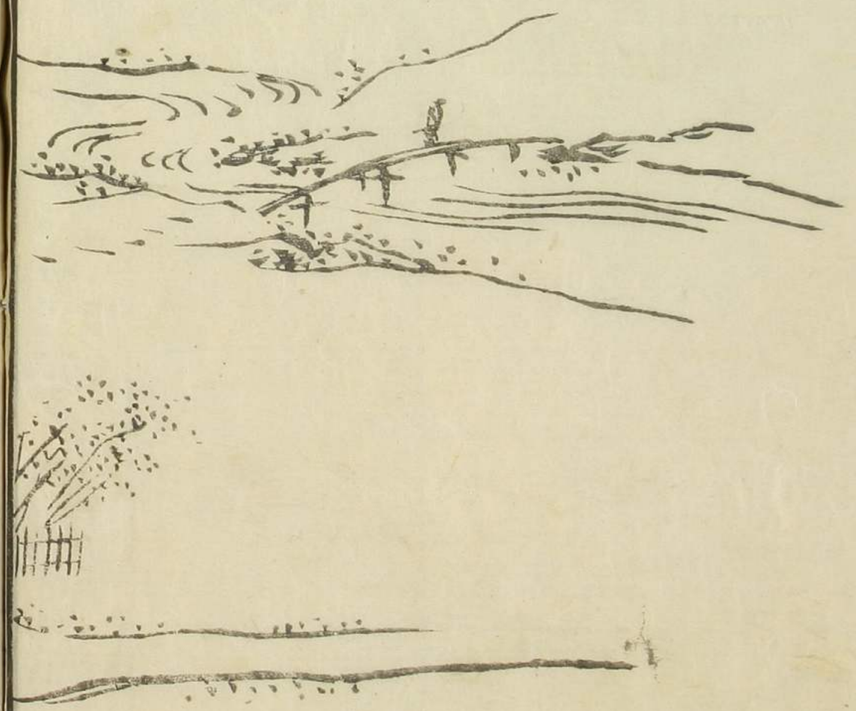
墓場の桶よてこどこ三だんまぢぞるこの
門へうてこちこてこのでぐるうんのこるうも
稲へ人を極乗へこちびくあるこぶ。それでん赤
一ナあるよぢぐへあるこちるさるであるう。その
くるんな。ホであ悪侍の紀念いちの酒方の中
でも。度々の長根切縄をこて。死るれさ人も
あるさうん。たうこあの世で俳よるうてあるこどや
あろ。悪侍ぢぐへもちこるうぶそのれよるんで

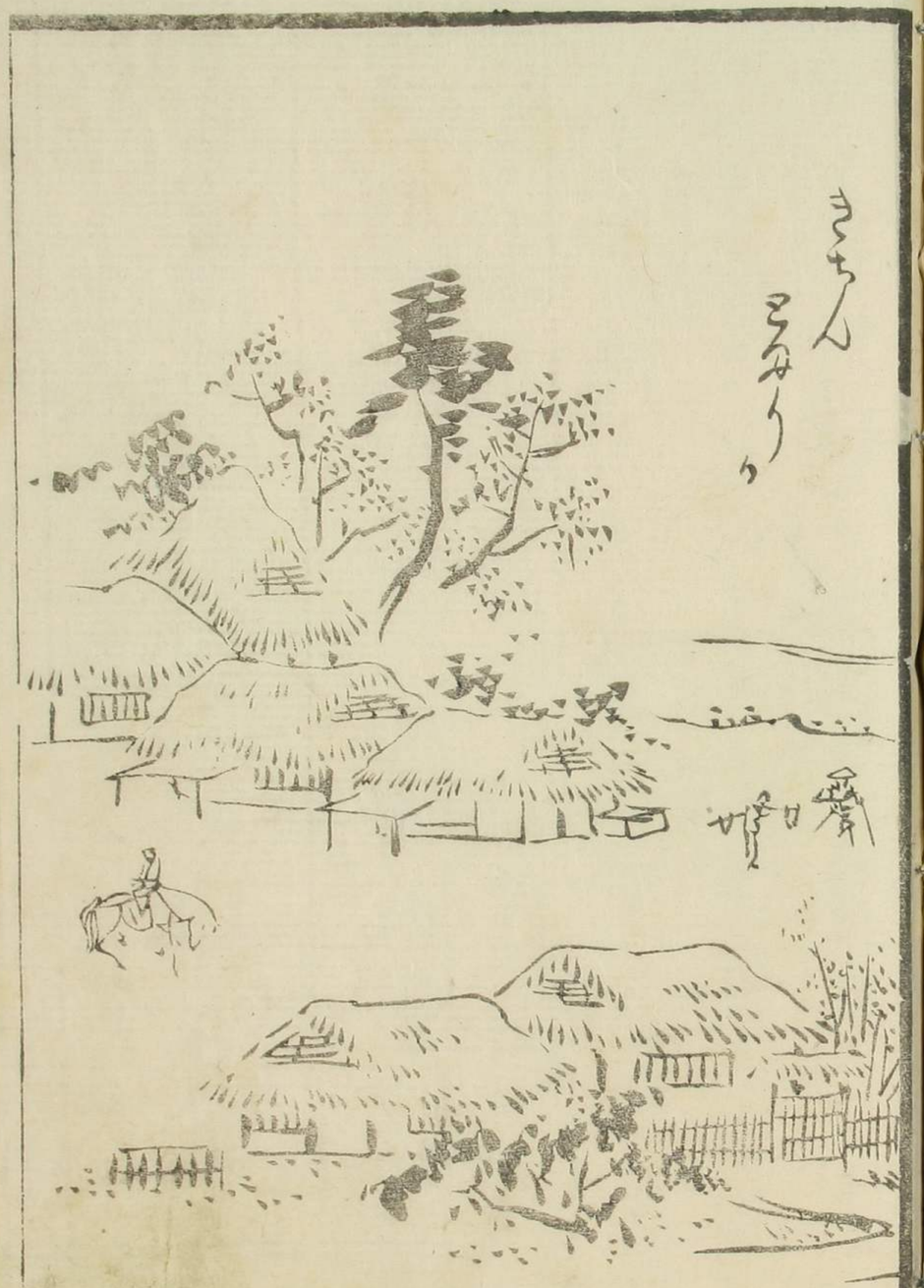
極方のおうげで四五てとる所がぞうじゃ
あろぺ〳〵とおもふそれハあるが。先刻ちと
茶ぐつるんぶ。ハウ仰ふた。この吹筒ハ。ぞうこの
地ぬでこそうさの。個こで買ふてこのうんな
「イヤ色ハ此年上京いてこ。ハ。茶の古ぬ眞
「人せで求めうこぶ。何ふこめのやらぬ。ぶまり
下ぬで。コリヤ吹筒ふこ。こらうぬ。調てさ〳〵
らふさのでぞりまて「ふもこ〳〵。リヤ定て

そるのんふ地うら。黒塗ふてあうてうんも
つけてあるこぶやあ。「さうぶや「ヲ地もるん。
ひうんこ五ぬこうとしこうん「ぬんでぶりる
「その吹筒の海うこうと呑ふこぶ。ぶく
物ぶむうつ「ぬでぶざりやて「ハテそれハ
公家ぬの小仮ぬこるものぶや「ヤアこ〳〵
「そこ〳〵ん禁裏の地蔵遣ふどの節。堂上
方ぶ。そるのこ完筒とふものぶぞ。

とんるぬ。あるさぐぐぶ鳥よ。ぬあふぬきさく
るらせら主ら村。そぬ主人るさるりのどや。江戸
でぬ青竹を火吹竹ぐるるる

緑亭
可山





それより名居本の宿よりいる山ぶの神数九名物ゐろ

ゆ行くの病ひの毒を消ととや
赤の赤玉中 珊瑚珠のいろ

山宿の棒鼻ゐろ。さるよたちてもく旅人ゐ。
いろさ又山沢よ。ちづらく通ぜしめのと入人。
彼の名の根とこのあゐろのさるゐとてもく。
あとゐろ ヲイこまの所さんぢち

ゐさろ。待ゐさろ トうのうびん人をあろうゐ来さろ。
ゐ。そのきゐと入人でゐよ山女ゐところの女ゐ。
ゐのとてだゐ合のゐろ中ざんざでゐきゐ。
ゐ人あとを ヤレハア来行人でもゐいよ トは内ゐろきゐどゐ
しておろうゐさゐ。ほうきハ
おゐしくあとゐろきけど
いづこちイ来ゐさるよ あふ蜜周ちまいおつ
ゐ。来べんこアちげいい行人 ソリヤ来おざん
行へとゐてぜどとも行人ぶ。ゐサアおんゐどとて。
ねこんざんゐら来ゐ中ざアあどれさ

ハアーさげへよ根性骨ノウぶちまけて女房まさごい
るるべんさつてぷ勿体移へぷ天照皇大神宮さまノウ
雑文よりたこんぐりんぐアうらぷんまつり
むげち移へさアさつまるめへナりーあまよう
そんるふ素サアりむさつさア移へおれぐアとつて
めんぐりのある男ぐアり。いげへのとぐあつるア
とつて。ぶのうるべんさアおりん移へくらやレさつあ
法さつさア移へよーそんぐらハア伏見の山田屋乃
ぢつつつ流サア。伏ノウつけさつしありまーつりヤ本。
おつも友達のはきあんぐぷやあぐともいそれ移へ
うらぷ二三度べもいつさアけまどぷおふハアちのち
いぐりんぐアぷお天皇さまうけて。喰サアかつら移へ
さつさよーそんぐらハアこーあもいのべんさア
ぐぐん移へぐあーさこんぐるさんまふハアとつまぐ
うんこんぐぐぷでつくおまんぐが可愛るつも。移へ
ぐとぐんべんぷそんぐアうらぷふらぢあぐくと

あつとあくびアけまで。今ヨろうれるとありやアポ。ゆく
ざざらアポ。ヨース殘ノウ一本はん生しまそべいぞふ
いぢあち日逼笛ノウしてうまさろせス　ヤレさあ
そんぢアことひるさるぞけのわさろち非いぎまんべの
イニヤ戻りるさろハテまき来べよ来べん
そうていぢのちんぢアやらぞ。まぢでくるべいまも
あんべいよ。戻りるさろくトそうつきてぞらこひろ
男　ヤレりあかくさろしやまし。小且那ちえん

るのふ出逼笛ノウしちやアあるる稼くことよトまり
えるすやうんとまるを女そうつきぞのるさるぎるる。ヤあざく
アやうぢけの茶ちんをひつさるるる。ヤあざく
といろうちやるうら。獨あみしるさろ。ヨー
ちの茶をあんていぢさまいトあづけのさセ
あろのとりの茶のをかるぐとひろ　そうん日ち
ちりをあろてさろくとあちゆくるるげ。ヤアレコりヤ。
まちるさろくトさもをろぢ。然の男あろとるるめ
あとをおろうけあぐらのとめかるる。
あろうかこれをうんて点をあるあしぞれよあどあくさろうれり
ぞげよいろう。ちヤ否よ入て方ホのめのろざとくあちよ
ちらをろヤー目の下よえやる　ヤ
あううのけーきよえんとうれく　ヤいろう　茶ぐ

ちまとてぞんじくやくとろぐ
を目鏡ちうもまさちん掛軸の
宗旨の姫の京文
宗ちうやちんる姫の京文
ゆくて真紙ふまる。候をつけてあちうの掛よ
ちうけるとその傳よ。おくゑの面の障屏しき
禪門体をおさるぶ。を をんて ア ちうちう
るでや。モを学猴ぐら感心ありまさ
そそのちうふそちやのおんもぐふうく

ア イ ちうちもひとちうやちうや
名おのさちうもちう唐木
面元もちうくてそれ ちる姫
イヨでけ ゴリヤ 中公方よどい 初の
孫じや。ちとこがお江戸の ぐやな。社名ちん
でや ちうちい江戸の三陀羅の社中でおんぐふ
上やをハアち移てお名ハおちちいくこと
ちうぶおんぐら生ちさ生ちかく アイ 法あふ

お近様でも稽古うちぽこりとアアたべてもいいまかり
ゆきて〜さよどや時よ日〜へぱされの家加ドヤが。
ナニトあるいがこ今夜ハ日〜のうち〜とさらせある。
日〜犯の所へでけんが茶が好ドヤよ。泥棒をと
たてゆまきやいまちよが。ぞよでやく〜りりヤ
みぐでくぱたさんぞうさるいうさぱせちふ
るうやせうう稽〜それハ除きドヤ。ザア同あま
いぐこぐれトもあられてあくりが表をえありせおんでも
えんぷのえ。表れちらして。ちそそまあくとめ

ゆるさん用。折つ強てなんなのあくふいそうかめおんさよの
かうへゆきこるよ紙本体ともいふべきこいそそのうまおくの
ざーさえあんあいとられて折ろをれが。女
下女ぐこぐん茶ゆどりちありて
るされゆすさ〜アイ おせちでぐざりゆぐはま
小八ぱうちぐの。上座の客もあり。ぐそくそうる
蓋陰ぐぐ〜ぐんをうちでハぐぐふ又。狐をうさ
そふるこうぐゼー此内うちぐうきつぐうの花をひえ
りちさうー。あとうり此花嵐のゆきとくてぴんのうさ
十四五のまくぐをぐんれうちのうちよ。掛ぐめのかよよこうこッ
ゆりち〜アイ おそゆくさゆるよ。ぱ退座でぐざうせる

ざくゆ
まさりあるき
夜ゆ

けうで
さむさま

孔雀
羅が井の
春
織屋
金九

じやあろぷんまは花めらひをりまーさ。花剣つよ
こまくへ入まさろせくてトさうきせと「サアく大変な
ことをいひ出ーぷたうさんなことであろうとそろそろ
「ナニ」はらくへのことまるものろ。おまぶさん
たりといけてんせよ。ドレくトなるをそろひをろう
鰲のくさくあて。「モシ」花鋏ハ下ふあらぶろふ。
さらうとさる。
ソリヤ根メかせる鰲じやもの「ナニ」是を根メと。
コリヤ鉄でこらくさかふぶ。どうして根メよいのるる

ものでぶ。いけるのじや移へたらふそれも。
その見のあらくを花をさしてあさせるのごろう
「ヒヤ」ちまことをぷめくよそれをおそろるもの。
モシその拵様をとくらんな。コリヤめづらんぷ。ある
ものどんなものの。彼前のとぶ「ナニ」それがどうう
だちであるぶぶふぷたんぶ移らとりの様じや
「ぶん」移らるう朝鼠をいけるものざんねん
門兵衛あさぶ不仙兵衛とふふ「ヒヤ」ふふとと

いふる。今よる手際をゑんせやうト やうくのことふぜんやう
ことやうのたるとと
はくこと　ぶんを　はれ
つぎるぐら　ナシト　おそうしんうぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵と
おもひ　後もるんやうじゃ。そして葉の枝がとろう
て。花がそるらしろむんてしぐや　陰　うしろをむけそ
あるう　ぜんぜん　ぜんぜん
ぜんぜん　ぜんぜん　ぜんぜん
ぜんぜん　ぜんぜん　ぜんぜん
ぜんぜん

コリヤノ十松。アノいけくそ紙ゑんそおけ。ごめんぐ
なこあるやおあさまいけさうせへさのぐやゑん。
我徒ぐいけあんさのぐや。ハヽ。そよでや。ゑか
あそう。はよ伺もひちそうもせどそどゑんふ。
ヨトのそこでけゑ。田舎お殿の図をおつこそ
あんこぐ。さんそゑのこでや。ひ孫あぐやよ。お茶一ッ
ゑこぜませどろト内ろうぞ主出。いんまうら町ろ
教伺さゑがごでこうせへこる。ヲイヽこぐふゑへ。

お出まんうとうあてあらん。ト（このこぐのうち出らうん。いきいぐのお医とゑ）
うるうで　ひあんこ下せへ。サアヽゑへヽモモ
おあさゑゴリヤ近重の朋友ども。かるれうら
少孫あ。ゆへ移きまし。ゑ。ゑんたでめくおふ
かうあそ。おまんがさ。江戸やゑ。うふこゑへ
ゑまうせへさ。さうべおゑのあくヽ。ゑどふ。
いつとゑとそよごでこうせへ。トいひさそろくいくう。
さらぐいこゑのヽあんきくうぐうしぐ。ちや。ゑきへいでゑんたあ。
まうあのぐらもうゑぬとうあもごうこうゑういぐせんとあのヽ

ところへ此医者がきてとうしんさいのをさいてくれるんでもそのさいをとりまきたらうろうろし命のうちうるづき（俗）モシ　あるのこ今ち業づけまるそのごぞうまさで今まだ〳〵おたるのーるさうや（俗）イヤそのごやそぴんまつひのんをおさんやすーさ

ト此門ぬけてかさとまりて（俗）めのようらごそのあこのをやさぴサア　お出ずんひ（俗）イヤすづおきさく

トむりようのぴんたくをさきるようむさとのあいはあいは、ありーとちぴびるつてんさかとんよいうおりあがりまうたひ入ーるるかとこのうけめのるどこんかとこ分つきごときざーをそこへきうーー見（俗）ホイ　なんまうう

ト　すこそこへうときざーをおきそうるたうようたひひでけれが。

（俗）ト　をうんそさそれ一へん出るをーそるのそのおと。

ぎもおるのーーたるそつるそそへくたひ出れが。（俗）コりヤ　こるる

きーさ八もそのさるのうとおとこうそひ出

どのでやぎどりこへーーぎこらせるのーどやト　あきんうーり

あろうちぴんたくへためのうけへどきざーをうけおきそ又たちるト　づのそのこうもかうとたるるぜんりんまろべらしく

ちやをさそこ上ろのおへちやコんをさおーとどんたくはよ

そりのこぴんのまんとさるる村あたるる級ぴつーうとちやコんの

中へおとーーるるおこ（俗）ことわけつこ（俗）こうるお後加減ーどやト

ひとこちのこそて

のをさーーこちやをつぎへおこるとと（俗）エそれをこうちちが

（俗）ト　ぴんのあたんおどたるるこ見べ

のむのこへ（俗）ゴりヤアとんざたるるーーぎトくちのこうちよ

ぎとうひるぎうら

あんどんのかちくるところをむくのうくさくさくそのそのあとをきさハハヨとさきさきこれも新を志ろめあなぐらのまんそくてんれが
なかや菓ハさこさこーあてあたるの正ちくろおどんでゐる丸くあるくの目をみさだあぐら「エ」そのんさこ
ぐぐぐートぐろとのんで志まうふとこうもきまをつぐしてコりヤぐのぐヤ
ヨーロ美い財ろくら。菓ぐがぬで正くの金庫へロ
出ちくてぐ。義仏ヤて菓をさらるとらよ仏法ハ。
笑ーさうもるひよめづくしるのでヤアハーート片
アあくしもさくくるうどちしこ人の志ハあひる「コりヤア
ちくせをうちてめけうくち。ほほくさくあぐら
絵紙のるん菓どうをヨんるるくよ。棄るくより外ハ

志ろくさが稀人「トハ」ヨヤあくくよ。大きる牛の子
笠がつくてある。酒屋の小僧めがどんぐ正へ
ヨさどれておきヤアぐくさ「イヤ」あ生くる雪雨
るどのせろぐあのるぐる笠であふぐ「ナニ」志へ
あんる笠をきせるのくぐさくさどぐへ田舎ぐ。ワくちぐぐ
駅ぐこ。蛇の目の傘といよ正ぐ「そ」てあさこ不
ある。求係の仏さ面ハるんぐ稀「あ生ハ」利久
居士の係ぐぐるて「小ハ」ヨヤどんぐあのをくへ

かざろてもらの「ナニ」そんさきのぞんるん。利
久い茶道の祖師でござる「ハア」利久が茶の
湯の祖師なら。助右衛門の祖師で
あろう。大ようひなたるーさト山内なのあてやありけん。
「どこトあのをそうあと」
るあとりるを。「サア」そんさきーきつみて
いざござれ〳〵トさきさきちてあるくるあるのあとまけて
あけがそんさくわどりあるくかりてとをあけん
とさるーときうちあんさのーもぜんりんたたくふるろちろうんと
ひとりのそい花をいけんとどんかろくあるさのちうおけらまてい
あるまりーとひさうのあるを花生右みを墨へ
かろくあそ右のあーあそれあどりあがりの戸をあきくちーしろけく。

ひざうのあーふそちらいろ「ドレ」くあるやせねろ。
あんだりあるともまらぞ
「ろちらぐひとろあけてんあるやせうトそんさくふろろく。
「ありもろさ戸を」
あけんとまろけんどもうちけんちろあちくあるそ
さればるくあるざるをほぼちろちらぶをるぐ戸をそちまるを
お門ようふんだるあーと外うちあをいきるひざるるかんて
あどりあどりの戸ぐろくえノそんところんてりもぜんりん。
「うそよどれさるろちうふんぐーのきく花いけもりりしく。
どろさろくさそれるひやうーしよそくあーをあをいぐ。ほぼ戸の
ひとあぐちをけるぞをとほぼくろとりろそうろさまさ
さそれそびりーふそぐんのろぞあるうを考てうるようちて
「ハア」あのろぐ〳〵アタ〳〵〳〵「ハア」どーろく〳〵「ハア」コリヤ
どうぐやコレそそるあるあそぐざんツレく和尚ぐや。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かたうくふこまを取り出。磐の持さ形く細引を持て
引ぢりるのぢら「エイ」さてまあと「エイ」サツサ
「さてまあとエイ」サツサトとぶりぢふ同金蔵の「サアく
まるいぢやだぢん〳〵。コレ〳〵紙屋のヤイ。左幕十八
ちよぢやり〳〵。よりのぢらに役あておきるふ。何して
居るぢん「サアく」いろまんろく「トまをとりさる
男八。女のうづ[illegible]ものあて。新[illegible]ちのおちんべさい。
[illegible]八けあて[illegible]氏[illegible]梨孔の[illegible]屋あて所のろんものちんよつとも。
[illegible]この太平十女ぢふて今きあうきりんのまて[illegible]る所。おろうふあいふ
あちうりのくと出ちふあ[illegible]ぢんちさあて

引ぢり出されて来るなれば「ヤレコリヤく」ぢんま。
うぢらとるまもるう「ふ。おとぢるなく「ちそまう
いろぢく〳〵といひようふ。おとぢるなく「ちそまう
ちまいろ。そのあ〳〵なぢぢや「たちのある。
いんま幕が[illegible]「ぢが後が出る所ぢやよ。進
るとうりふ出さぢと[illegible]ぢんあんら
ぢや。ぢあんあいとまうんと[illegible]「ハテうるぢ
るけふあや[illegible]ぢふいぢ。ちるとい
まんう「ちこの[illegible]が[illegible]ぢんぢ

むりやとろうとさるをふりはらひ。その角
書のうちのおさむらひ。さきさらに
いきとぞ。ゆくやらぬ。リリヤ。おきぐ。
マアこのうぐいすをあてうらめうとさるぼ
うんべ。名のよ。ザア〜。やりかうらうせ〜。ト
山男うぐ〜をさぐるとうあるく〜。おるまの女
うらぶんぢ。ぢんひとうあそうさ半
エイ。サウサ〜。〜〜〜〜。さ〜と八ぇとうぶんでも
山家ふ。素人芝居がおるとえんて。その女
ぐ〜ふ。役がおるさもちろんぢゃ。

「されがさきゆうく」トそのあとをゐおくり西くゝふ。
此ものゝ兵衛のさいまんと
ゑんぐゝよのがりてうちん
ゑうと町の入ちちよりゝ人ら
まちぢゆのあるゆうを往還
ようゝ「えへけき」「ナニトどのようなをを
さるる。芝居をひとをうゑんゆうどやゝ行くゝ。
陪「ひゝさまごてどるゝ。コリヤゆく土産ぶ」できさく
ト「ゆがてゝの社地よりゆきてゝ」これぶゝやぶきの舞髪をうけて
ゆくをたゝり。ゑゐのゆゝ西ゝ青天上みてゝ。ゑゝくゝゆゝのの
ゑゝよゝたゝびゝがきをうぶゝり。をゝ
ゑゆゆゆゆゆゝくゝをひゆるゝ
まちぢゆゆゝ「カッチく」「ロ上」「さゝざんく」「陪」「酒沙鉢」
ひゆゝゝゝ本

同ざ「鰯十連」「浅畑村」「弟元より」「言持乃
太五右へ下さる。そびゝ彩三袋。牛房十把。
六左ゝ山の長徳寺さゝゝより西町の伊兵七へ
下さる。「紙十帖」「麦附りの一ぞ三左ゝ」「後家
さゝゝより長松へ下さる。「搭三束」「らうそく二十挺」
「狩本陳さゝゝより。「る喰の持出左ゝへくゝ」「ざゝ
ひゆゝ本「カッチく」「そうざんく」「ひ不國性茅帰物」
のぶんゝでまりさゝゆうゆ「カッチ」「カチく」トおさ

しる亦舞臺のしろものんこうの大ぶ三四さまろうの大ぶ
ちんくるまくぶふんへるをさぐよどうぐぶての十里がまぶ
とせーちゃうるうるうる

ろいきりめん煮うぞうりおりそ。なんぜこちの
あんあんあん。赤線のきりめんきせそ出かさ。
一コリヤ ちりんるまちであらぞぶなんであらぞぶ。
牙が徒い和蔵内の役じや。お身さるのとこの
八内どのの。牙が母のゆ〜じやふ。茶漆の赤線
ぎりめんいどでまちりて宝紙なりんじや。
そうういろりせるる。和会の邪 ヂふるらぞふ
色角
まるあちくいとまりんるらく〜イヤ和会じや

あろがあらまりんが。牙が家の内宿内でも。えん
問屋しおりそ。今年文化九申年まで。おりそ
百八十年ゆちんとそうぞくせる家筋じや。
徒金がるのけふあやこそ。ざりまりんふしてもまぞすゆ
ひけいとそうまりんとおに嶽さまま。拵紙さそうりさ
おとこ下や。るのんぜこちのあんあんあん。赤線の
衣装きせそ。る物のとこのせん松ぶろそを
金入の衣装きせそ出かざろあんぞ〜ト

虎拳
ちからくらべ
ちの
きり縄
うハ
ゆゝ
ゑゑ
ゑゑ
こゑハ
めんゝ
詰文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

虎の威をかりてきつねつけて
かゝてあさりの山宿を打るとぎうんたち
柏原あぞいさうる

作者旅行中多く動き給ふ所なれども
絵列後西さうての清稿なれば此編異筆まぎれし
間てこゝに筆を省くやうて口編よりしるべし

木曽
街道續膝栗毛三編 下卷終

[illegible]